

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和6年度第2回高松市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	令和6年10月25日(金) から11月7日(木) まで
開 催 方 法	書面による審議
議 題	高松市一般廃棄物処理基本計画の一部見直しについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
審 議 委 員	12人 伊賀有輝子、生嶋暹、岩部壽夫、植松隆男、江口侑輝、杉ノ内柚樹、長井一喜、橋田行子、古川尚幸、細谷芳久、松山千恵子、山城一浩
欠 席 委 員	0人
傍 聴 者	0人
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課 (Tel.839-2388)

### 審議経過及び審議結果

(1) 高松市一般廃棄物処理基本計画の一部見直しについて

【結果】

- ・意見あり 3
- ・意見なし 9

【計画本編に関する主な質疑意見等】

(委員)

家庭ごみの減量対策として重要なダンボールコンポストの紹介と購入について補助金についても分かりやすく大きく紹介する。

(事務局)

今回の一部見直し対象は、ごみ排出量等の将来推計値見直しに伴う、ごみ処理基本計画の目標値見直し及び関連項目の文言・表現の整理でございますことから、いただいた御意見に関しましては、次回の見直し年度である、令和9年度の計画見直し時に検討いたします。

(委員)

事業系ごみが平成18年度比で21年に10%削減達成できた後、更に変更で22%に設定した根拠を教えてください。また、ごみの減量の目標策定について、どのような根拠で行われるのか教えてください。(事業系ごみの減量に関して、

横ばい状態からの打開を図る事)

(事務局)

当時のクリーンセンターへの受入れの状況から、事業系ごみの内訳として、紙類と厨芥類が多いものと推察されておりました。紙類については、古紙回収業者による資源化ルートが確立されていたこと、厨芥類に関しては、食品リサイクル法による資源化促進が期待されていたことから、紙類と厨芥類について、さらに1割弱程度(当時の事業系可燃ごみの6%)を資源化・減量化できるものとして試算し、平成18年度から29年度にかけて、22%減量することを目標として設定いたしました。

今回の目標値については、計画資料編に記載しております令和9年度の将来推計値を設定いたしました。

#### 【計画資料編に関する主な質疑意見等】

(委員)

プラスチック容器包装原単位予測について、対数式・べき乗式推計と他の3方式予測が2グループ化に分かれる中、べき乗式を選択する理由として、過去の実績トレンドから理解できるが、予測値が低くなり過ぎることが懸念されます。

(事務局)

原則、決定係数が高いもの採用することとしていること、また、過去の実績から見ても問題のない範囲であると判断したことから、べき乗式を採用いたしました。

(委員)

事業系破碎ごみにつき、直線式予測とロジスティック予測で大差ない中、他のごみ種と異なり、当該ごみだけロジスティック式結果を選択した理由は何でしょうか。

(事務局)

原則、決定係数が高いものを採用することとしておりますが、決定係数の最も高い指数式は上昇幅が大きすぎると判断したため、次に決定係数の高いロジスティック式を採用いたしました。

(委員)

ごみ分別アプリ(平成28年11月1日利用開始)について質問がございます。私は、今年度伺わせていただいた、インターンでこのアプリの存在を知り、利用させて頂いているのですが、このアプリが普及していない理由として考えられることを教えていただきたいです。また、今後このアプリを普及させていくのか、それとも別の施策に切り替えるのか、今後についても教えていただくことは可能でしょうか。

(事務局)

ごみ分別アプリについては、年間で約6,000人程度、利用者数が増加しており、令和6年11月1日時点の利用者数は42,447人と、本市の約2割強の世帯で使用されております。

普及率が低い要因としましては、これまで、家庭ごみの収集日や出し方などに

ついて詳細にまとめた「ごみ分別ガイドブック」を全戸配布しており、ごみの出し方など、ルールが広く浸透していることや、転入者・希望者に同ガイドブックをお渡ししていることから、「ごみ分別アプリ」を利用する人が少ないのではないかと考えております。

現在、本市としては、ごみ分別アプリの周知用チラシを環境保全の啓発イベントや環境学習等で配布するなど、デジタル化の観点からも、市民の皆様にアプリの利用を促進しております。

今後におきましても、コミュニティ協議会や関係団体の協力を得ながら、ごみ分別アプリの利便性を広く知っていただくことで、その普及に取り組んでまいります。